

戻れない村民の生活再建を 考える

福島県相馬郡飯舘村小宮字野手神
新天地を求める会 伊藤 延由
2012.11.18

私の思い

◎飯舘村は除染によっては復興しない

◇年間被ばく量 1mSVは達成出来ない

◇子どもたちを住まわせてはいけない

◇年寄りだけ戻っても10年後、20年後は廃墟

◇農業は風評被害を克服できない

◇100年、200年をかけて復興させる

◎故郷は遠きにありて思うもの

◎私の復興

◇孫たちと住める生活環境

新天地を求める会？

- 飯舘村小宮行政区民数名の任意団体
- 正体不明の団体
- 会員数 4名？

◇村が発表した除染計画では飯舘村の復興は不可能

⇒住民投票を要求

◇安全・安心な居住地の提供を国に求める

◇新飯舘村建設・移住の原資を捻出する為、中間貯蔵施設の受入を苦渋の選択で受け入れる、国による不動産の借り上げ・買上げを求める

◇最終処分場の受入も排除しない

活動実績

1. 2011年11月『新飯舘村の建設を目指す署名』

12月初旬 村から規制の通達で頓挫？

署名結果：200名程の署名を集めたところで村からの規制が掛かり頓挫？

国会議員に陳情 ⇒ 空振り

2. 2012年5月『飯舘村村民アンケート』発信

6月5日結果発表（月刊『政経東北』社支援）

我々の行動を受け急遽村がアンケートを実施

3. 小宮地区への仮置き場設置反対の中心で活動

署名活動

2011年11月18日

新飯館村の建設を目指す署名

新天地を求める会

代表代行：沼 惇／渡邊 計

飯館村菅野村長は独善的に放射能除染計画を発表しましたが、村民の生命、健康を担保にした村役場の存続のみを狙った村役場の為の村役場による計画と断じざるを得ません。我々村民有志は坐して死を待つよりも新天地を求め明るい未来を築く運動を起こしたいと思いますので下記の様に提案します。

- 村の除染計画は住民投票に持ち込み全面撤回を求める。
- 安全安心な地の提供を国
所への移住は自由。

- 新飯館村建設、移住の原
認める苦渋の選択と引
によっては核廃棄物最終
この趣旨に御賛同の方は
事務局を設営して関係省庁

隊員各位

平成 23 年 12 月 6 日

お知らせ

日頃より、巡回ご苦勞様です。

さて、このたび村役場より通達がありましたのでお知らせいたします。

○見守り隊詰所(いちばん館)内においての、
政治活動及び各種署名活動を一切禁止いた
します。

2012/11/15

村民アンケート

【飯舘村村民気持ち調査】

『新天地を求める会』

ご自分の考えや感じていることに近いと感じたもののすべての番号に○をつけてください。

1番から86番までありますが、前後の設問に関係なく、それぞれ個別にそう思うと感じたものに○をつけてください。

こちらの調査は皆さんの複雑な心境を表現するためのものです。ご協力いただける場合は同封の飯舘村村民アンケートと一緒に返信用封筒で送付してください。

【放射能・除染】

- 01 放射能が年間1mSv以上は
- 02 放射能が年間5mSvまでは
- 03 放射能が年間20mSvまでは
- 04 放射能が年間100mSvまでは
- 05 放射能による健康被害の恐れ
- 06 飯舘村は子供や孫、友人が
- 07 飯舘村は子供や孫と暮らせる
- 08 環境こそが飯舘村の価値であ
- 09 放射能による最新の汚染状況
- 10 放射能の汚染に関する情報に

【帰村】

- 11 移住先に仕事があれば移住し
- 12 飯舘村の環境は破壊され元に
- 13 県外に移住しても健康に対す
- 14 移住先の斡旋をしてほしい
- 15 移住後新生活が安定するまで
- 16 帰村しても農業ができるか心
- 17 帰村しても山菜や農産物が食
- 18 帰村しても今勤めている会社

【村、国】

- 19 政府の帰宅困難地域等3区分
- 20 政府の帰宅困難地域等3区分
- 21 政府の帰宅困難地域等3区分

【飯舘村村民アンケート】

『新天地を求める会』

1. あなたの年齢を下記からお選びください。

- ① 0～15才 ② 16～19才 ③ 20～29才 ④ 30～39才 ⑤ 40～49才
- ⑥ 50～59才 ⑦ 60～69才 ⑧ 70～79才 ⑨ 80才～

2. あなたの性別を教えてください。 ① 男性 ② 女性

3. 震災時の家族構成をお聞かせください。

区分	人数	区分	人数	区分	人数
① 高校生以下	人	② ～20才代	人	③ 30～40才代	人
④ 50～60才代	人	⑤ 70～80才代	人	⑥ 90才以上	人

4. 現在の家族構成をお聞かせください。

区分	人数	区分	人数	区分	人数
① 高校生以下	人	② ～20才代	人	③ 30～40才代	人
④ 50～60才代	人	⑤ 70～80才代	人	⑥ 90才以上	人

5. 村での居住状況を下記からお選びください。

- ① 自宅・持家(世帯主) ② 自宅に家族と同居 ③ 賃貸住宅(アパート、借家) ④ 寮
- ⑤ その他()

2012/11/15

【アンケート配布 & 回収状況】

配布数: 1, 539件(内91通は不達)

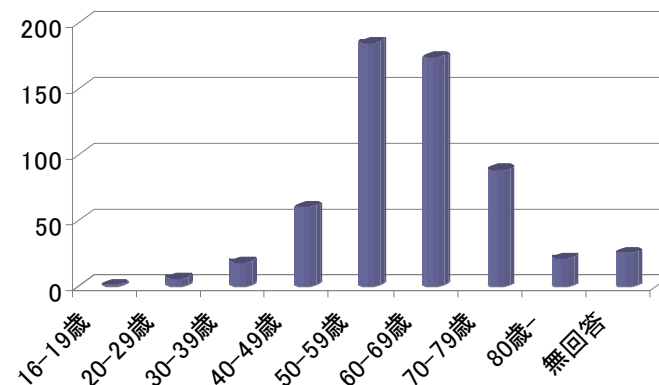
回収数: 576通

回収率: 39. 78%

Q1 年齢(576)

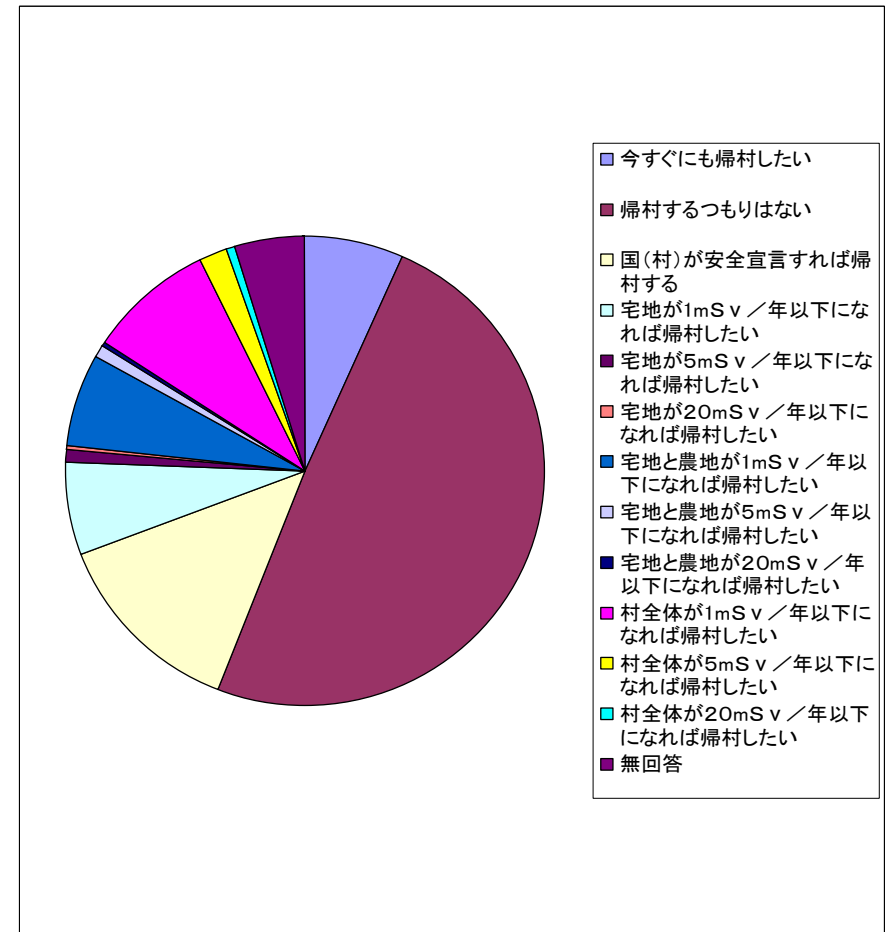
16-19歳	1	0.2%
20-29歳	6	1.0%
30-39歳	18	3.1%
40-49歳	60	10.4%
50-59歳	184	31.9%
60-69歳	173	30.0%
70-79歳	88	15.3%
80歳-	21	3.6%
無回答	25	4.3%

50歳未満
85件 14. 8%



帰村について

Q10 帰村について		
今すぐにも帰村したい	38	6.6%
帰村するつもりはない	283	49.1%
国(村)が安全宣言すれば帰村する	78	13.5%
宅地が1mSv／年以下になれば帰村したい	36	6.3%
宅地が5mSv／年以下になれば帰村したい	5	0.9%
宅地が20mSv／年以下になれば帰村したい	1	0.2%
宅地と農地が1mSv／年以下になれば帰村したい	37	6.4%
宅地と農地が5mSv／年以下になれば帰村したい	5	0.9%
宅地と農地が20mSv／年以下になれば帰村したい	1	0.2%
村全体が1mSv／年以下になれば帰村したい	51	8.9%
村全体が5mSv／年以下になれば帰村したい	11	1.9%
村全体が20mSv／年以下になれば帰村したい	3	0.5%
無回答	27	4.7%
合計	576	100.0%

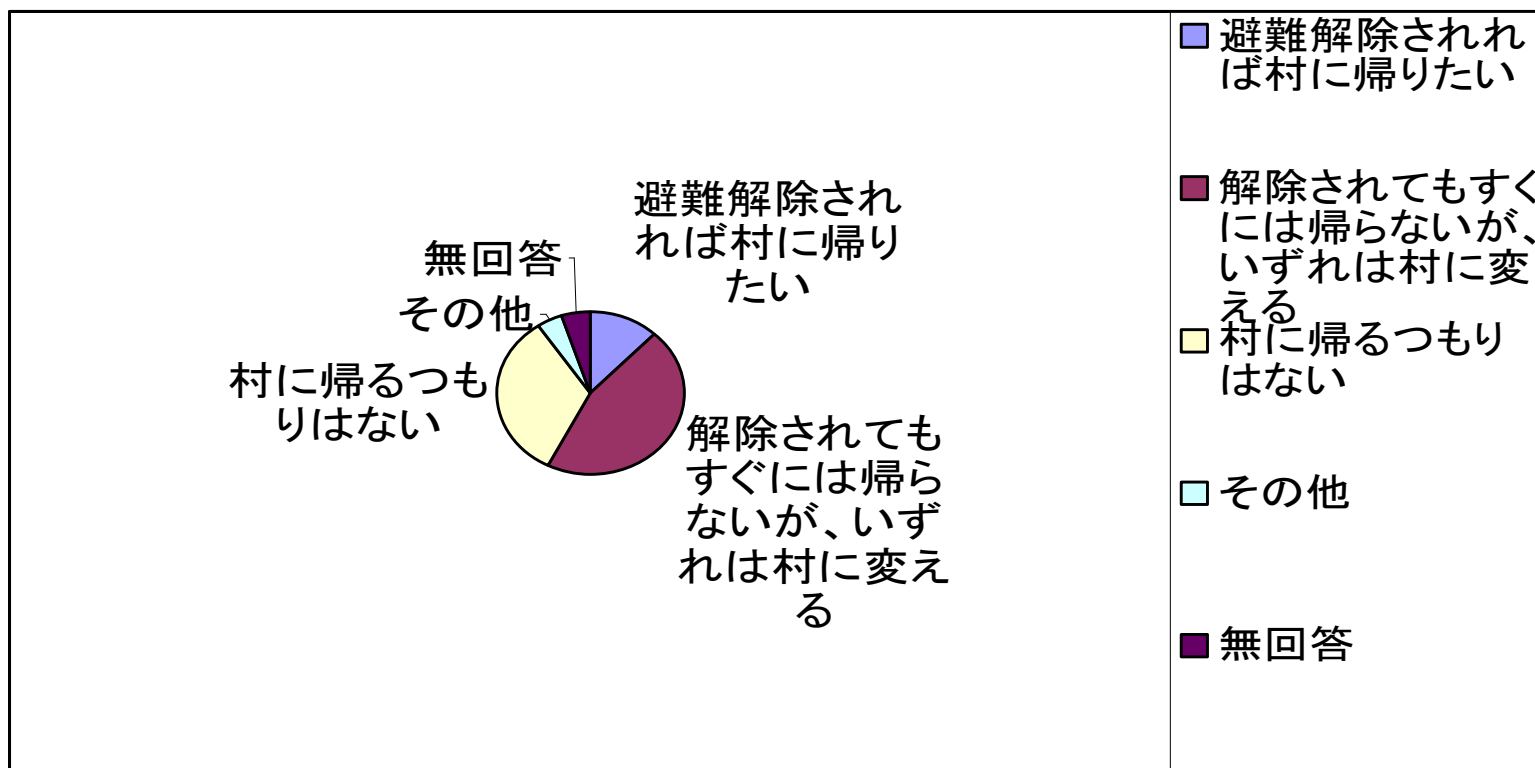


帰村について(村のアンケート)

帰村について

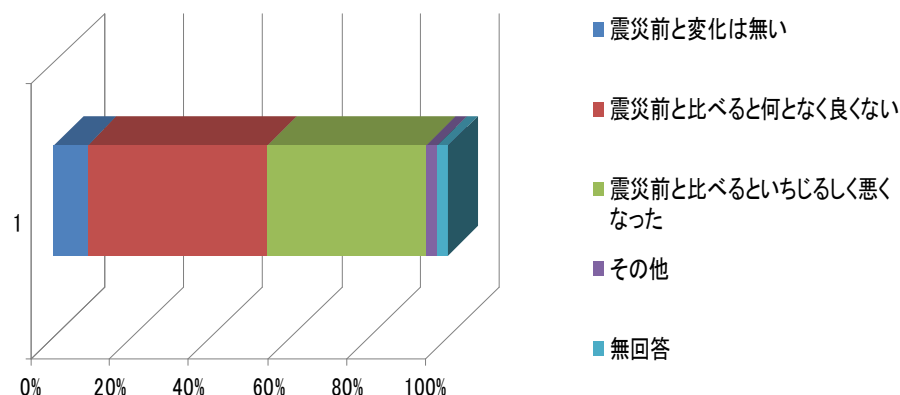
回答数 1,788件

1 避難解除されれば村に帰りたい	215	12.0%
2 解除されてもすぐには帰らないが、いずれは	814	45.5%
3 村に帰るつもりはない	592	33.1%
4 その他	76	4.3%
5 無回答	91	5.1%
	1788	100.0%

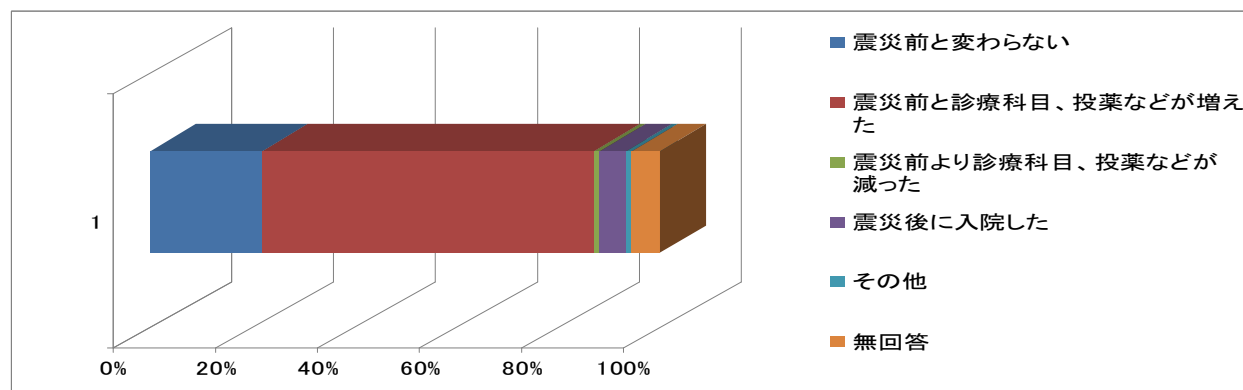


健康は？

Q17 自身と家族の体調(576)		
震災前と変化は無い	50	8.7%
震災前と比べると何となく良くない	262	45.5%
震災前と比べるといじじるしく悪くなった	231	40.1%
その他	17	3.0%
無回答	16	2.8%



Q18 自身と家族の通院・投薬(576)		
震災前と変わらない	126	21.9%
震災前と診療科目、投薬などが増えた	375	65.1%
震災前より診療科目、投薬などが減った	6	1.0%
震災後に入院した	30	5.2%
その他	6	1.0%
無回答	32	5.6%



アンケートの証明

村内一年間の死者数

135名（平年では100名に満たなかった）

特に特別養護老人ホームでは新たな入居者

48名（平年度は10名程度）

低線量被ばくの結果??

特養は当初避難しなかった特養入所者へのストレス回避の為、ストレスが無かったのにこの数値は？

今、飯舘村は

避難状況(24.10.1現在)

飯舘村は2011年4月22日計画的避難が発令され全村民避難。

1. 県 外	303世帯	(国外 12世帯 14名含む)
2. 県 内	2, 715世帯	
3. 村 内	97世帯	
4. 不 明	2世帯	
計	3, 117世帯	6, 047人
(震災前 1, 700世帯 ⇒ 三世帯同居が分離避難)		

施設別(県内)

1. 仮設住宅	9地域	600世帯	1, 182人
2. 公的施設		190世帯	522人
3. 借上住宅		1, 679世帯	3, 993人
4. 親族宅等		244世帯	347人

飯舘村は除染によっては復興しない

●今行われている除染は

- ◇村民の為の除染？、除染業者の為の除染？
- ◇除染業者に目標が示されていない
- ◇双葉8ヶ町村の除染が頓挫し、ゼネコンが集めた資材、人材が遊ぶので飯舘村に集中投入（4,000～5,000人投入）
- ◇除染により一端は低下するが時間経過とともに戻る
時間経過を待たず、平成26年3月に避難指示解除見込みを国と村が合意。（除染して線量が下がったらと言う条件はない）

●今、国、自治体が行うべきこと

- ◇災害復興住宅の建設 ⇒ 村民の意向を聞く
仮設住宅からの救出
- ◇東電に対する賠償に正面から取り組む

放出された放射性物質を除去する手立 ては無い

◎直接除去する薬剤は無い



村内の民家屋根の除染
iitate-sora20121118

水田の除染



水田1haから
約1,000トンの廃土

元は『一般廃棄物最終処分場』

除染廃土の仮置き場



iitate-sora20121118



← 雨樋の下234 μ SV/h
 この程度のホットスポットは
 村内いたる所にある

自衛隊が行なった役場前の
 石畳の除染

線量の遷移

2011.12.20 1.57 μ SV/h

2011.12.29 2.89 μ SV/h

2012.01.10 3.26 μ SV/h

2012.02.16 2.19 μ SV/h(降雪)

2012.04.10 2.64 μ SV/h



iiitate-sora20121118

そして国と自治体は

これまで国内では年間被曝線量 **1mSV**

除染しても1mSV以下に戻らない事が判ると

除染の目標を年間被曝線量 **5mSV** ⇒



放射線管理区域とは：放射線による障害を防ぐため、作業者の出入り規制、防護設備の徹底、線量の監視、汚染、拡大防止などが法令で定められている区域です。原子力発電所、病院、工場、大学、研究所などの一部の場所（1時間あたり0.6μSV超＝年間約5mSV）が指定され、一般人の立ち入りを規制（禁止）しています。

しかし、それも達成が困難とわかると

年間**20mSV**以下は、タバコの害よりも低い、仮設のストレスよりも低いと言
い、20mSV以下の地域を『避難指示解除準備区域』と称して帰村宣言を予
定している。⇒ **8月7日福島市内の住民懇談会の発言！！**

村民モルモット？

●子どもたちの健康

国及び自治体の初期対応の不備を子どもたちは自分の体で証明しないといけない

●低線量被ばくによる健康被害

◇低線量被ばくは晩発生のがんや白血病などだけ？

◇高齢者や慢性疾患者に対する健康被害

東電賠償の現状は

●村民の復興を妨げる東電の賠償態度

村は民事不介入を盾に？村民への支援は行わない

◇今年5月に至り漸く、“原発事故が無ければかからなかった費用は東電に請求できます”という文書を発信しましたが、東電はこれさえも”中間指針”に無いものは請求しても支払わないのが現状

◇聞かなければ理由も言わない

◇電話で4時間も話した人、4時間は珍しいが30分1時間はざら

●賠償の原点は“現状復帰”

◇財物の賠償が決まらないと”新天地”を求める原資が調達出来ない

◇財物の補償を優先しなければ生活再建は出来ない

◇今行われている5年分600万円の一括払いは避難等に関わる精神的慰謝料の一括払い、使ってしまったら後の生活どうする？

補償交渉事例

私の場合は中間指針に無い項目15項目要求、13通約10,000字の手紙を発信、漸く一項目を認めた。

しかし理由も述べず、“請求額”、“算定額”の表示のみ。

第三回目 11年12月～12年02月

請求額円242,704円

10/1の算定額338,680円

7/6の算定額38,680円

求いただいた金額からの変更点について

つきまして、ご請求いただいた金額から以下の変更がございました。
ご容赦くださいますよう、お願い申し上げます。

ご請求番号		V170002984		お申し出番号		A000218633	
内訳	請求項目	ご請求金額	算定額	備考			
	その他	242,704 円	338,680 円	受領した書類にもとづき、算定額 を計算いたしました。			
		円	円				
		円	円				
		円	円				
		円	円				
		円	円				
		円	円				
		円	円				
		円	円				

するよくいただくご質問」を同封いたしておりますので、ご参照ください。

0500000066

変更点について

ございました。

984		お申し出番号 A000218633	
ご請求金額	算定額	備考	
242,704 円	38,680 円	受領した書類にもとづき、算定額 を計算いたしました。	
円	円		
円	円		
円	円		
円	円		
円	円		
円	円		
円	円		

2012/11/13

貨幣経済に現われない豊かさ

●飯舘村の魅力

所得レベルでは福島県下最下位なのに？

自然、風光明媚はもとより、人の心の豊かさ、食の豊かさ。四季折々の産物（山菜・茸等）、取れたての食材（献立を決めて畑に、畑で完熟したトマト）、日本蜜蜂の蜂蜜。

現状では、中間指針にない、領収書が無いもの、日常の生活費増は10万円の避難等にかかわる精神的損害に含まれるなどの理由で補償対象になっていない。

◇中間指針に無いのはそっちの勝手

◇百姓は元来領収書など取らないのが日常

MP

今、正さなければ！！

飯舘村モニタリングポスト測定値

(単位: μ SV/h) 測定日: 2012.09.13

No	設置場所	MP表示	ALOKA測定値	M/A	備考
1	小宮	3.550	4.610	0.770	*1
2	蕨平	5.519	7.010	0.787	
3	八木沢	1.583	1.970	0.804	
4	大倉	1.154	1.490	0.774	
5	宮内	1.833	2.250	0.815	
6	佐須	1.858	2.380	0.781	
7	前田	2.066	3.080	0.671	
8	臼石	2.605	3.21	0.812	臼石小
9	二枚橋・須萱	1.089	1.420	0.767	
10	伊丹沢	2.728	2.810	0.971	飯舘中
11	草野	1.023	1.390	0.736	草野小
12	関沢	3.053	3.300	0.925	

*1: 小宮MP詳細

◎原発事故は**地震**や**津波**だけで起こる訳ではない

- 1979.3.28 スリーマイル島原発事故
- 1986.4.26 チェルノブイリ原発事故
- 1999.9.30 JCO事故(原発ではないが)

は地震でも津波によるものではない、関与した“人”
に関わる事故である。



人はミスを犯す動物



事故が起きた時に復旧する手立てが無い

**原発は現在の人
知では制御不能
なフラント！！**